

和歌五首 : 文苑

著者	川口, 虎雄
雑誌名	龍南會雜誌
巻	17
ページ	33-34
発行年	1893-05-27
URL	http://hdl.handle.net/2298/4081

をさなごが友呼ぶこゑも、

いとかすかなり。

うるはしきこの景色こそ、

わが舞とむうてななりなれ。

たなびけるこの霞ころ、

わが着なむころもなりけれ。

あなわはれ、この春景色！

らびやらび、一ふし舞はむ、

あしたは舞ひを。

をかしさに、わのれが舞ひの、

樂しさに、四方の景色の、

はからずも時をうつしぬ。

今とはや目まましつらむ、

この母を尋ねやすらむ。

はや歸り愛で慰めむ、

かのみどり子を。

芳野川

全

風はやみ

吹きて渡れば、

まさかりの

峯の櫻は、

ひさかたの

空に飛びかひ、

夕月の

かげさへ曇り、

あらかねの

土をもうづみ、

白妙の

雪どを見ゆる。

かくばかり

風の吹ければ、

絶間なく

ちりてしあれば、

花ふき

つもりつもりて、

みなかみは

せきや止むらむ。

み芳野の

よしの、川と、

川水の

流れも絶えて、

まろたへに

唯花のみぞ

流れくだれる。

詠松竹梅

川口虎雄

むれてゐる鶴も千とせをよこふなり

みどりかはらぬ松の下かけ

むら雀鳴ねも千代をかさねつゝ

よをこめもてる窓は吳竹

なうくはふりつむゆきのまけかれと

梅の香のまはかくれさりけり

同

うつみ火にむつかたりせしふるさとの

冬の夜寒ろ戀しかりける

同

見たひに別れし人のまのはれて

松もたひ路はつれなかりけり

詠史

笠間梧園

天意中興已可知

風雲改色護龍旗

惜他一夜鴛衾暖

不記南枝入夢時

結髮從軍向寒沙

風流關外咏殘花

多勞不補吾頭白

徒向君王獻黑蛇

投身國步嶮艱間

敢傲阿兄死避難

一塊擎持趙家肉

間關忍耻到崖山

遺恨十年一擲梭

同門血肉可肥家

榛荆鋤盡君謀了

枉向黃臺摘幾瓜

公扶邪獄無慙色

私盜他官有寵顏

不獨當年涉濤議

欲將逆鱗渡人間

萬艦任他勢捲濤

伏屍百萬漲腥膏

爲君飽試胡奴血

一倍加光日本刀

僕奴革面着花簪

位極人臣絕古今

妙技蜻州已圖畫

却添蛇足向雞林

偶成

園 哲 雄

清時未見出麒麟

空到明治廿六春

學術難酬經世志

一生莫作讀書人

貧賤何令意氣降

只嗟微力鼎難扛

平生偏慕祖生志

不掃胡塵有若江

百歲難期河水清

萬方何日遇昇平

通霄歌々不成睡

燈下題詩紙有聲

三肩行李帝京遊

再上書疏志未酬